

---

領域名：小児保健看護看護

報告者：山本真充

---

教育及び実践の課題

---

現行カリキュラム移行後、平成 25 年度より小児保健看護演習にシミュレーション学習を取り入れた。デブリーフィングはトレーニングを受けたファシリテータがエビデンスに基づくモデルを使って指導するリフレクティブプロセスであり、シミュレーション・ベースの経験で最も重要な学習の段階とされる(INACSL,2016)。シミュレーション学習がより高い学習効果を生むために、また学習者がより主体的な学習者となるために、デブリーフィングをどのように改善したらよいかの示唆を得るため文献検討を行った。

---

活用した論文の概要

---

Chen ら(2016)は、学習者中心と指導者中心の教授法を比較しながら、それぞれの教授法によるデブリーフィングの重要な要素を明らかにする概念枠組み等を紹介している。学習者中心の教育は学習者と指導者が共に学ぶ環境で知識とスキルを構築する一方、指導者中心の教育は情報の伝達が最も効率的で効果的であるという前提に基づいている。学習者中心と指導者中心のアプローチのデブリーフィングのバランスを管理する際に考慮すべき変数は、(a) 利用できる時間、(b) 学習者の知識と経験、(c) 国の文化である。また開けたボディーランゲージ、興味深く受容力のある声、積極的に聞くことは、学習者を引きつけ、協調的で学習者中心のデブリーフィング体験の場を与える。同様に学習者に興味を示す非言語的なジェスチャーや表情は、ディスカッションやリフレクションを促進するのに役立つ。TeamGAINS、GAS 等のさまざまなデブリーフィング方法はリフレクションを促進する。

---

教育及び実践への活用

---

シンセサイザーのディスカッションでは、学生の考えに関心を持っていることを分かりやすくオーバーアクションで見せることや、トピックの移行の際の注意点等が確認された。これらを踏まえ、デブリーフィングでの発問の仕方や教員の態度、トピックの移行の状況等、教員の学生への関与と学生の反応について、シミュレーション学習実施後に教員間で振り返りを行い、継続的に教育方法の改善に努めた。また INACSL の基準では、デブリーフィングはトレーニングを受けたファシリテータが実施すべきとあり、科目責任者を中心にシミュレーション教育に関する研修や認定講習を受講し、指導者の能力向上に努めている。

---

参考文献

---

Cheng, A., Morse, K. J., Rudolph, J., et al. (2016). Learner-centered debriefing for health care simulation education: Lessons for Faculty Development. *Simulation in Healthcare*, 11(1), 32-40.

INACSL. (2016/2018). 伊藤綾子,阿部幸恵(監訳). INACSL ベストプラクティススタンダード:シミュレーション<sup>SM</sup>. <https://www.inacsl.org/inacsl-standards-of-best-practice-simulation/> (2020 年 9 月 18 日現在).

---